乳幼児のアナフィラキシーへの対応

食後 服薬後 ワクチン接種後 動物接触後 ハチや虫刺されの後 の症状出現に注意

心停止・呼吸停止

p.02「心停止の救命処置」を参照



軽い症状

消化器症状	呼吸器症状	皮膚症状
▪吐き気 ▪軽い腹痛 ▪嘔吐（おうと）1回 ▪下痢1回	▪口やのどのかゆみや違和感 ▪鼻水・くしゃみ ▪軽い数回のせき	▪かゆみ ▪数個のじんましん ▪部分的な赤み ▪唇の腫れ ▪まぶたの腫れ



軽い症状なら5分ごとに観察し、医療機関の受診やエピペンを準備

全身性のじんましんや強いかゆみ、唇・舌や顔全体の腫れが急に出現

下記の症状が出現

重い症状

消化器症状	呼吸器 症状	全身（循環器）症状
▪繰り返し吐き続ける ▪持続する我慢できないほど強い腹痛	▪のどや胸が締め付けられる ▪声がかすれる ▪犬が吠えるようなせき ▪持続する強いせき込み ▪ゼイゼイ、ヒューヒューする呼吸 ▪息がしにくい	▪唇や爪が青白い ▪脈を触れにくい・不規則 ▪意識がもうろうとしている ▪ぐったりしている ▪尿や便を漏らす



直ちに医療機関を受診

▪小児科 ▪救急科



エピペン®（アドレナリン自己注射薬）が処方されていて、アナフィラキシーショックを疑う場合、上記の重い症状が一つでもあればエピペンを太ももに打ち、119番通報